

ちいきそらぞら

特定非営利活動法人(NPO法人) にいがた地域創造センター



第16号

2020.12.17

主な内容

就任のご挨拶

理 事 長	高橋 猛…… 1	にいがた「道」フォトコンテストについて…… 4
寄 稿	新潟県土木部長 金子 法泰…… 3	活動状況報告…… 6
寄 稿	新潟県土木部技監 坂井 徹…… 3	河川情報モニター実施報告及び 都市公園情報モニター実施報告…… 7
退任にあたって	前理事長 田宮 強志…… 4	組織図・会員の動向…… 8



就任のご挨拶

理事長 高橋 猛

新型コロナウイルスで右往左往させられた令和2年も師走を迎え、街がイルミネーションに彩られる季節となりました。会員の皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げますとともに、日ごろから特定非営利法人(NPO法人) にいがた地域創造センターの活動にご理解とご協力をいただき改めて御礼申し上げます。

さて、私こと、このたび田宮理事長の後任として新理事長に選任されました。身に余る重責ではありますが、精一杯役割を果たしていく所存であります。会員の皆様には引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

当センターはこれまで行政と連携しながら様々な活動を行ってきました。この機会に自分なりにNPO法人に期待される機能に照らして分類してみました。

当センターの定款には、活動の種類として、「まちづくりの推進」「環境の保全」「災害救援活動」「地域安全活動」「科学技術の振興」の5つの

活動を掲げております。

これに基づき当センターは、河川、公園のモニターや、身近な社会資本見学会、都市緑化フェアや万内川砂防フェスタへの参加・協力、水防演習への参加、各地域懇談会開催など、行政や地域のニーズに対応した幅広い事業活動を実施してきました。設立時から今日までこれらの活動に携わってこられた多くの先輩諸兄に敬意を表するとともに、引き継いだ我々の世代が、これからの時代に求められる新たな課題、ニーズに的確に対応しながら、事業を進めることが求められていると認識しているところです。

ところで、これまでの事業体系を整理すると、図のような関係とされます。これらの3グループのトライアングルは、通常の公務であったり、経済活動であったり、地域生活の一部であったりの関係です。当センターの役割はそれぞれのトライアングルの繋がりが有機的に動けるような触媒の役割に近いと思います。(グラデーション矢印)

例えば、図のAの関係は、地域住民からは要望・

陳情・意見が行政に向かい、行政からは事業説明・PR・モニタリング、災害対応（情報提供・勧告・指示・命令）などが出されます。これらの業務がいざというときにスムーズに動けるように、NPOが河川情報モニター、施設見学会開催などにより行政と住民との情報共有を促す役割を果たすイメージです。

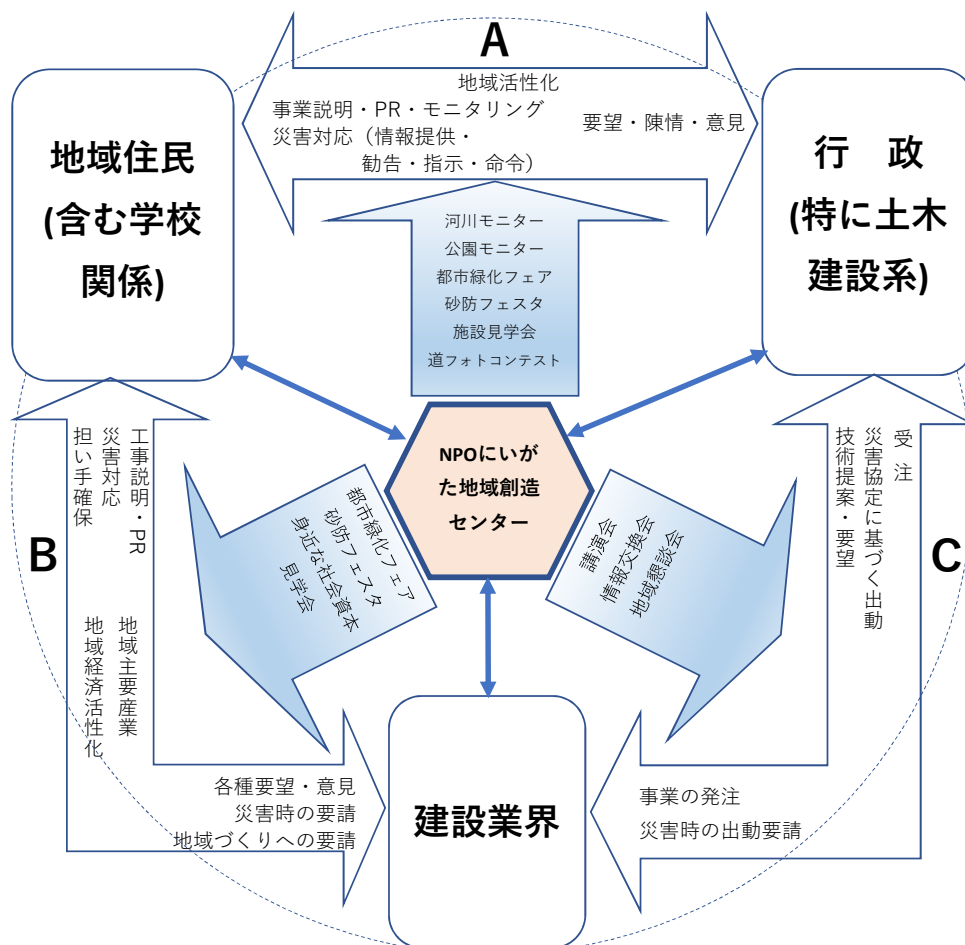
Bの関係はどうでしょうか。建設業界からは工事説明、PRなど具体的な業務がある一方、担い手確保という喫緊の課題もあります。住民からは工事に当たっての要望や意見が出されるほか、両者の間には地域の主要産業、地域の活性化など重い役割・課題もあります。

その関係をサポートする事業として、都市緑化や砂防施設のフェア、高校生や小中学生、あるいは家族を対象とした社会資本の見学会などが位置づけられます。

同様にCの関係においても、両者がスムーズに機能するように地域懇談会の開催もNPOの役割です。

このような観点で、センターの役割や事業を見ると、新たな役割、ニーズが浮かんでくるのではないのでしょうか。また、今の仮定は対象グループが「3」で平面的ですが、文化や観光、健康などの要素がある「街づくり」と、これらのグループを3次的にネットワークすると、立体的な厚みのある関係が構築され、さらに新たな役割が求められるかもしれません。

新型コロナの影響で活動が制限される中ではありますが、少しでも社会に貢献できるように会員の皆様と一緒に考え、取り組んでいきたいと思えます。一層のご理解とご協力をお願いして就任のあいさつとさせていただきます。





新潟県土木部の取組について

新潟県土木部長 金子 法泰

NPO法人にいがた地域創造センター会員の皆様には、日頃より河川巡視パトロール等新潟県土木行政の推進に向け、ご支援・ご協力賜り感謝申し上げます。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年開催されています各種行事が中止されるとともに、マスク着用・三密回避等行動変容が求められています。このような中でも、政府の新型コロナ感染症対策の基本的対処方針では、建設業は、緊急事態宣言時においても事業継続が求められる関係者として位置付けられており、感染対策を徹底しながら作業が進められました。また、県では、地域経済を下支えするためにも早期発注に努めてまいりました。本県は他都道府県に比べ相対的に感染者数が抑えられておりますが、これは、医療従事者等の懸命な努力と県民の皆様の感染防止対策の徹底によるものと推察しています。

一方で、今年も7月に九州地方を中心とした甚大な豪雨災害が発生しました。気候変動の影響により激甚化、頻発化する自然災害に対し、防災・減災及

び国土強靱化対策を着実に進めていく必要があることから、3か年緊急対策後も必要な予算の確保と地方財政措置の拡充を国に要望しております。加えて持続可能な社会づくりのために、活力ある地域づくりという新潟県土木部が担う役割を果たせるよう職員一同で知恵を出し合いながら取り組んでおります。

現在、次期建設産業活性化プランの策定を有識者に意見をお聞きしながら進めています。新潟県総合計画で打ち出されている理想像「安全に安心して暮らせる、暮らしやすい新潟」「地域経済が元気で活力のある新潟」を具体化していくためにも建設産業が担う役割は大きいことから、労働者の高齢化・担い手不足、働き方改革及び経営基盤の安定といった課題に対し有効な施策を講じていく必要があります。その中で、ICT活用による生産性及び安全性の向上が1つの有効な打開策となると考えています。

結びに、NPO法人にいがた地域創造センターの益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。



スポーツとともに

新潟県土木部技監 坂井 徹

私は若いころから体を動かすことが好きで、特に、テニスは始めてから40年以上経ちます。毎週末、友人達とのプレーを楽しんできました。週末テニスのおかげで、仕事の疲れやストレスは毎回キレイさっぱり吹き飛ばすことができます。スポーツは疲労・怒り・抑うつ等々のネガティブな感情・気分を抑え、「活気」を高揚させてくれることは証明されていますし、仲間とのテニスを通じて大いに実感しています。

スポーツ基本法（H23）においては「スポーツは文化」、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を」と明記されました。プレーの爽快感や緊張感、プレ

ー後の会話や食事など、スポーツの魅力を通じて「豊かな人間関係」や「健康でメリハリのある生活」を築くことが期待されています。

また、メンタルトレーニングについても、テニスの指導者研修で何回か学ぶ機会を得ました。そのノウハウについては組織運営にも相通するものと確信しました。アメリカのスポーツ現場で、試合前に監督・コーチが選手を励まし、さらに前向きにするスピーチを「ペップトーク」と呼ぶそうです。一番言って欲しい人にかけてもらいたいことば、それが真の「ペップトーク」です。実践するには「傾聴」と「斟酌（しんしゃく）」が重要で、選手の声に耳を傾け、その心情をくみ取ってさじ加減をする。選手

との間に本当の信頼関係がなければ、選手の心に届かないそうです。指導者としてプレー（技術）を上演・解説は出来ても、選手の「心に火を灯す」ことが出来るかどうかは別次元の問題と学びました。

コロナ禍で対面によるコミュニケーションがとりづらくなっています。組織のリーダーとしては、

①方向を示しベクトルを合わせ、②モチベーションを上げるため刺激を与え、③部下を信じて任せ、部下を通して目標を達成する。リーダーの目指すべき姿と思います。部下との信頼関係をいかに築き、真の「ベップトーク」が出来るかが求められます。



退任にあたって

前理事長 田宮 強志

平成30年度から2年間、鈴木理事長の後任として当センターの運営に携わってまいりましたが、このたび理事長を退任させて頂くことになりました。この間、会員の皆様始め多くの方々から、多大なご支援ご協力を頂いたことに深く感謝申し上げます。

また、平成から令和に代わり、東京オリンピックの開催へと新たな時代への明るい希望を持ち始めた矢先に新型コロナの猛威にさらされました。当センターの活動も制約されましたが、会員皆様のご努力

により河川情報モニターの活動が出来たことは、ウイズコロナにおける今後の道筋になりました。一方、最大のイベントである年末恒例の講演会、来賓を迎え会員全体の親睦を図る懇親会は感染防止の観点から中止の決定をせざるを得なかったことは残念の極みであります。いまだ収束の兆しさ見えませんが、「明けない夜はない」、来年こそは当センターが、本来の活動を取り戻し新潟の活性化に向け、さらに発展していくことを祈念しまして退任の挨拶といたします。ありがとうございました。

にいがた「道」フォトコンテストについて

にいがた「道」フォトコンテスト実行委員会事務局
(新潟県土木部道路建設課)

道路は、日常生活に欠かすことのできない身近なものであり、私たちの生活や経済活動を支えている非常に重要なインフラ施設です。

そこで新潟県では、道路が果たす役割を道路利用者に再認識してもらうとともに、道路への関心を高めてもらうことを目的として、関係機関と共同で、平成30年度に「第1回にいがた「道」フォトコンテスト」を開催しました。コンテストには、小学5年生から91歳まで、計227名から657点もの応募がありました。

コンテストの入賞作品につきましては、より多くの方に見ていただけるよう、新潟ふるさと村などの道の駅や、国営越後丘陵公園など、来場者が多い施設において展示会を開催しました。



令和2年度作品展示会【谷川岳PA（下り）】

展示会では、来場者にアンケートを実施し、「とても素晴らしい企画だと思いました。それぞれの思

いで道が描かれており、どれも良い作品だと思います。」「季節それぞれの風景の道が見られて、次回も行なってほしいです。」などの意見がありました。

アンケートで、当コンテストに対する好意的な意見が多数寄せられたことも踏まえ、今年度、第2回フォトコンテストを開催（募集締切12月18日）することとしました。今後、写真の専門家を交えて審査会を開催し、第2回入賞作品の選定を行います。

入賞作品につきましては、第1回入賞作品と併せて展示会を開催し、引き続き、道路のPRを実施していく予定です。

最後に、当コンテストの実施に当たり快く賛同いただきました、特定非営利法人にいがた地域創造センターの皆様をはじめ、多くの関係機関の皆様に御礼申し上げますとともに、貴センターの今後益々のご発展を祈念いたします。

第1回にいがた「道」フォトコンテスト入賞作品



【一般部門】最優秀賞「星空ドライブ」佐藤吉晴（魚沼市）



【学生部門】最優秀賞「都市を縫う」齋藤 優（新潟市）



【一般部門】審査員特別賞「盛夏」小林恒夫（新潟市）



【学生部門】優秀賞「山吹色の散歩道」高木胡南未（新潟市）

詳細はホームページからもご覧いただけます。

にいがた「道」フォト 検索

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/road-photo-contest/>



主催：にいがた「道」フォトコンテスト実行委員会

構成／新潟県土木部、新潟市土木部、（一財）新潟県建設技術センター、NPO法人にいがた地域創造センター

後援：国土交通省北陸地方整備局、東日本高速道路株式会社新潟支社、新潟県道路整備協会

活動状況報告

(令和元年11月～令和2年10月)

令和元年

11月13日 第66回 理事・監事会議

- ・平成30年度事業決算
- ・令和元年度事業計画（案）及び予算（案）

12月19日 第67回 理事・監事会議

- ・平成30年度総会資料の確認

12月19日 令和元年度 通常総会（新潟東映ホテル）

- ・平成30年度事業報告及び収支決算の承認
- ・令和元年度事業計画（案）及び収支予算（案）



12月19日 講演会及び懇親会（新潟東映ホテル）

第1部

講師：新潟県土木部OB 米野 紀男 氏
演題：「新潟平野の治水の歴史」

第2部

講師：新潟県土木部長 中田 一男 氏
(代理 土木部技監 坂井 徹 氏)
演題：「最近の土木行政について」



新潟県土木部OB 米野 紀男 氏



新潟県土木部長代理 土木部技監 坂井 徹 氏

令和2年

(4月～9月) 河川情報モニター【受託事業（新潟県土木部）】

(通 年) 都市公園情報モニター【受託事業（新潟県土木部）】

2月13日 河川情報モニター地域担当者会議

- ・令和2年度河川情報モニターの実施計画について
- ・令和元年（平成31年）河川情報モニター実施に係る意見等について

8月1日 万内川砂防公園 環境整備事業【支援事業】

※ 令和2年4月～10月の間で、例年実施されていた下記事業等については新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に中止又は開催されませんでした。

- ・研修会等への講師派遣
- ・身近な社会資本の見学会
- ・地域懇談会
- ・各種支援事業等



万内川砂防公園環境保全活動

河川情報モニター実施報告

企 画 部

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動も、平成18年の開始以来15年目となりました。令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で4月中旬から5月末まで活動を中断しましたが、145名（延べ403名）の会員の皆様のご協力により、127河川の巡視を無事に行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化、一部地域での会員数の不足など、いくつかの課題を抱えており、今後の活動に影響が出ないような工夫が必要になっております。会員の皆様におかれましては、ふるさと貢献など地域を越えたご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



令和2年（4～9月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長(km)	NPO配置人員	NPO実施回数 延人員
	主任	副主任				
村上	高橋 一男	伊藤 勝夫	8	11.2	4	11
新発田	渡邊 秀美	鈴木 輝正	1	27.0	10	30
新津	武田 光男	佐藤 俊治	32	118.7	20	71
津川	加藤 勝男	中野 俊	3	17.8	3	6
新潟	村木 昭一	田邊 敏夫	6	45.6	12	12
巻	佐藤 敦	渡邊 和敏	7	138.4	13	34
三条	高柳 寿光	星野 正三	12	107.4	8	32
長岡	吉野 利夫	新保 弘	9	116.8	28	81
与板	吉野 利夫	新保 弘	3	47.0		
小千谷	吉野 利夫	新保 弘	6	37.8		
魚沼	小幡 利永	磯部 剛	2	36.4	5	16
十日町	樋口 利幸	井口 久雄	10	105.2	8	19
南魚沼	中澤 淳一	柄沢 安衛	3	30.6	4	11
柏崎	今井 英伸	野中 孝次	2	34.4	4	8
上越・上越東	近藤 利章	本田 誠一	9	141.3	16	46
糸魚川	本田 誠一	近藤 利章	3	40.6	4	8
佐渡	小鷹 賢正	藤井 武良	11	56.0	6	18
計			127	1,112.2	145	403

※巡視河川延長は左右岸の巡視延長の合計

都市公園情報モニター実施報告

企 画 部

県では、平成19年より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年からボランティアとして参加しており、おおむね年4回モニター報告をしています。

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で4月中旬から5月末まで活動を中断しましたが、モニター活動を担当された14名の会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

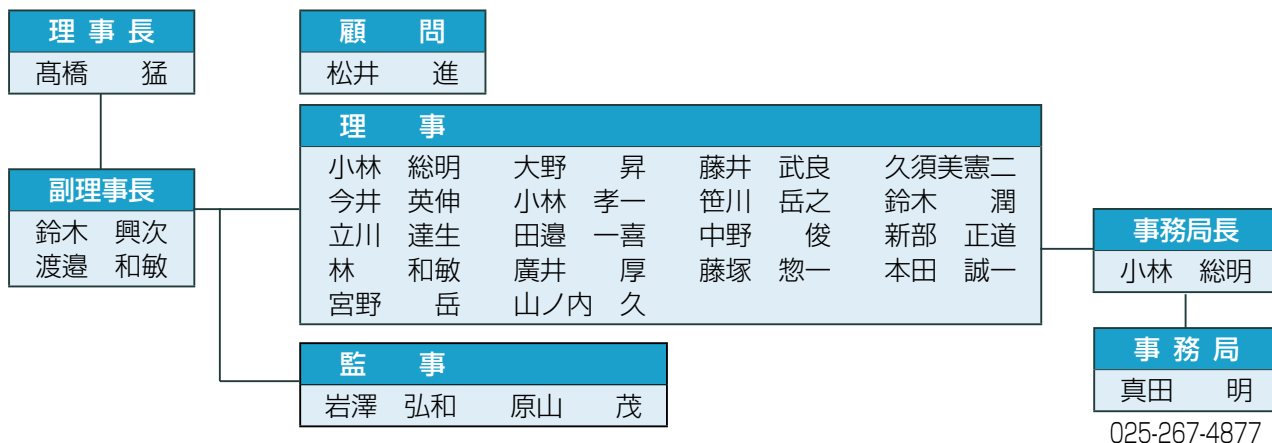
令和2年 都市公園情報モニター担当者

公園名	担当者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	古嶋 秀一	白石 光夫
聖籠緑地・島見緑地	佐藤 敦	椋内 睦夫
鳥屋野潟公園女池・鐘木地区	高木 努	阿部 高次
スポーツ公園北地区	村木 昭一	田中 明
スポーツ公園南地区	鈴木 潤	大野 昇
県立植物園	湯田 寛	笹川 栄
大潟水と森の公園	山田 修一	本田 誠一

組織図（理事21、監事2）

当NPO法人の役員は下記のとおり改選されました。（任期2年）

なお、併せて各部員は下記のとおりとなりました。



各部 (◎部長 ○副部長)

総務部	◎小林 総明 今井 英伸 小林 孝一 ○宮野 岳 飯塚 敏彦 鈴木 孝英 渡邊 昇
企画部	◎大野 昇 田邊 一喜 中野 俊 廣井 厚 ○鈴木 潤 藤田 英昭
事業部	◎藤井 武良 立川 達生 新部 正道 林 和敏 ○笹川 岳之 島田 和好 長谷川哲也 渡邊 文男
広報部	◎久須美憲二 本田 誠一 山ノ内 久 ○藤塚 惣一 伊藤 聡 加藤 勝男

会員の動向（会員数）

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成25年度 H25.12月	平成26年度 H26.12月	平成27年度 H27.12月	平成28年度 H28.12月	平成29年度 H29.12月	平成30年度 H30.12月	令和元年度 R1.12月	令和2年度 R2.12月
正会員	164	296	298	298	280	274	275	282	272
賛助 会員	個人	—	1	1	1	1	1	0	0
	法人	—	156	156	157	159	158	163	165
計	164	453	455	456	440	433	439	451	437

編集後記

新型コロナウイルスの影響でNPOのほとんどの活動ができなくなり、紙面が埋められるか心配しましたがおかげさまで発行にこぎつけました。

新年度は、役員が一押し新体制でのスタートです。高橋新理事長から就任のごあいさつでNPOの役割をたいへんわかりやすく図解していただきました。また新たな活動が見えてきそうな気がします。冬に向けて新型コロナウイルスがまた猛威を振るってきましたが、新年度は新体制で本来の活動に戻ることを切に願っております。

高齢者の会員の皆様には体調管理に十分気を付けてお体ご自愛いただきますようお願い申し上げます。（S.O.）



特定非営利活動法人(NPO法人)

にいがた地域創造センター

理事長 高橋 猛

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18

(一財)新潟県建設技術センター内3階

TEL/FAX (025)267-4877